

全員参加型の生涯学習社会を目指す地域総働型ESD
岡山市京山地区ESDプロジェクト
Kyoyama ESD Project, Okayama city



ESD岡山アワード2015「岡山地域賞」受賞、ありがとうございました。



岡山市京山地区ESD推進協議会

2002年のヨハネスブルグ・サミットで、ユネスコが主催した「持続可能な未来のための教育会合」に、岡山市特別代表として岡山市の発表をさせてもらったのを契機とし、京山地区で2003年から公民館を拠点に、学校や公民館や地域コミュニティが一体となった「地域総働型ESD」を進めてきました。



京山ESDの原点は、2002年のサミット
(南アフリカ、ヨハネスブルグ)

2006年に地域総働型ESDのための仕組みを確立

岡山市京山地区ESD推進協議会

京山公民館を中核拠点とした仕組み

学校教育

岡山大学
岡山商科大学 等

岡山工業高校
烏城高校
明誠学院高校 等

京山中学校

伊島小学校
津島小学校 等

伊島幼稚園 等

行政・社会教育

岡山市立京山公民館・伊島図書館

岡山県生涯学習センター 等



京山公民館運営協議会

各市民クラブ等

各町内会

各老人会

各校PTA

愛育委員会

岡山ユネスコ協会

京山中同窓会

民生委員会

京山ICT・ムービー京山

津島生活学校

連塾

環境アセスメントセンター

チューリップの会 等

池田動物園

オテンテン

NPO・企業 等



岡山市

岡山市教育委員会

岡山市立中央公民館・岡山市内各公民館

岡山ESD推進協議会

旭川流域ネットワーク

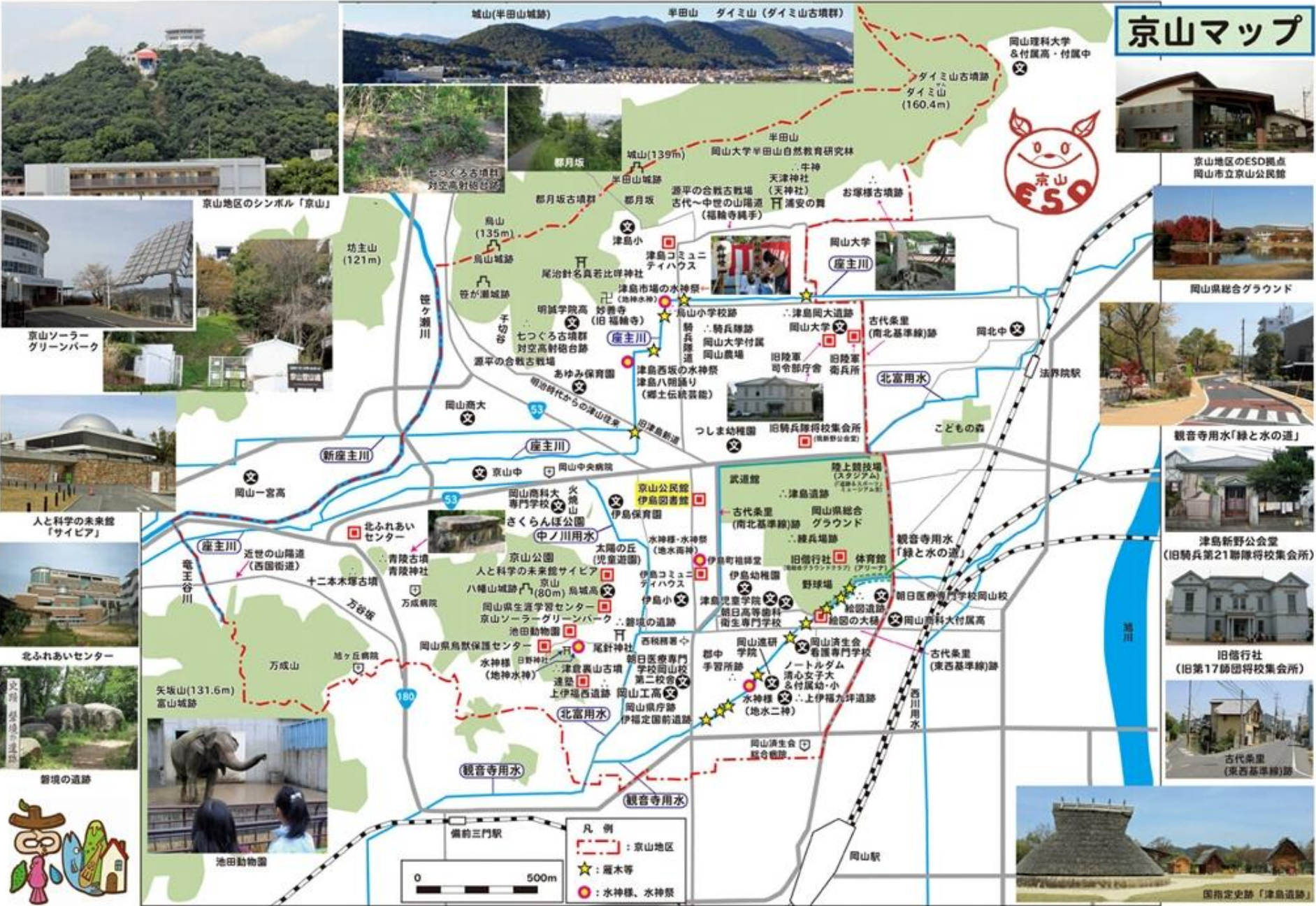
ESD-J・各ESD促進団体

環境省中国四国地方環境事務所

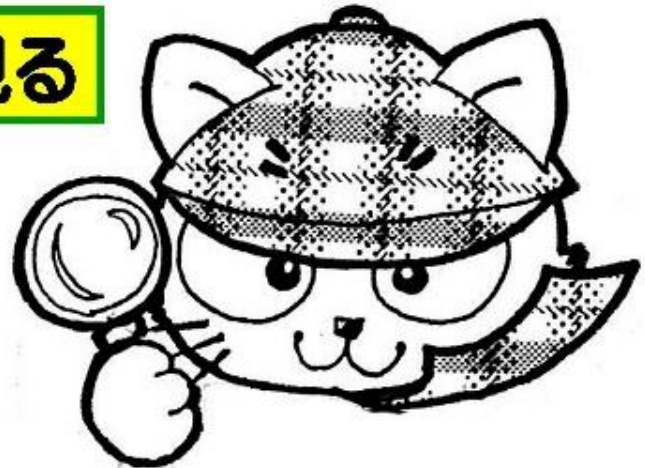
EPOちゅうごく

各マスコミ・企業等

京山マップ



地域の特徴や課題を「ESDレンズ」で見る



- 文教地区で教育環境が良い
- 津島遺跡等、名所や旧跡が多い
- 京山や総合グラウンド等、自然が多い
- 座主川、観音寺用水等、潤いがある
- 岡山駅から近く、医療機関等も充実していて暮らしやすい
- 大学生等の学生や単身赴任者等が多いため、ゴミ捨てるのルール不遵守、自転車交通や歩行のマナー低下等が課題
- 流動人口が多い(10年で10人に7人は入れ替わる)コミュニティの継続性や伝統文化の継承等が課題
- 在住外国人が岡山市内で最も多いと言われている宗教や言語、文化や風習の違い→多文化共生が課題
- 古来から交通の要所で、自動車等の交通量が多い排気ガスによる大気汚染や交通事故リスクが高い
- 地区内のバス路線は縮小、身近な商店の数も減り、高齢者等にとっては日常の買い物の負担が増している

ESDの視点で「京山地区が目指す地域像」

- ① 子どもも大人も共に学び合い、社会的課題に協働して取り組む地域
- ② 地域の絆を強め、伝統文化を伝承し、人と自然が共生する地域
- ③ 言葉や文化の壁を越えて、同じ地域に住む外国人と共生する地域
- ④ 障害者や高齢者も誰もが安心して暮らせる、安全で安心な住みよい地域
- ⑤ 学んだことを活かせる場をつくることで、学びから持続発展し続ける地域

目標1. 子どもも大人も共に学び合い、社会的課題に協働して取り組む地域をつくります。



共に学び
共に考え
人を育て
絆を構築



ESDサミット (京山ESDフェスティバル)

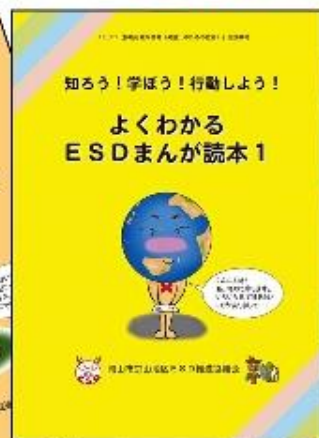


学校と地域の合同研修

地域に合わせたESD教材の開発と人材育成を推進 (京山独自のESD検定とESDフェロー認定を実施)



授業等で使える
ESD教材の発行



ESDフェロー認定証
京山 ESD子
Kyoyama ESDko
Registration No: 500001

上記の者がESDフェローとして認定されている事を証明します。

岡山市京山地区ESD推進協議会

事務局：岡山市京山公民館
〒700-0016 岡山市北区伊勢町2-9
TEL & FAX 086-253-8302
<http://www.ko-d.net/pages/esd/>

2013. 1. 26

修了者に「ESDフェロー認定証」を発行

ノートルダム清心女子大学のESD授業
での「京山ESD検定」の様子

みんなが集い、学び合える場づくりを特に重視

ESDフェスティバルなど、世代や立場を越えた学び合いと実践が地域内で定着

2日間で1200名が参加



第10回京山ESDフェスティバル(2015年)



地域課題討議
ワークショップ



市長や市議会議員と子ども達・地域との対話

世代や立場をこえて
学び合える場づくり
を大切にしています

目標2. 地域の絆を強め、伝統文化を伝承し、人と自然が共生する地域をつくります。



半世紀ぶりに復活させた「水神祭」



都市・農村連携「ホタル交流会」



ESD映画の制作 (ムービー京山、京山ICT)



ESD劇の制作 (劇団公民館・京山)

目標3. 言葉や文化の壁を越えて、同じ地域に住む外国人と共生する地域をつくります。



多文化共生プロジェクト 「フレンドリー京山」

お互いの文化や風習を理解し
認め合う活動や居住外国人用
お医者さんMapづくり等

目標4. 障害者や高齢者も誰もが安心して暮らせる、安全で安心な住みよい地域をつくります。



「地域の絆プロジェクト」



「地域の絆だより」

【(来-もの)S(字)のD(代まで)】

第2号

男性よ！地域をめざせ！公民館へ進路をとれ

市民図書館ととも

京山地区ESD推進協議会

誰でも参加できる 地域をつなぐイベント

日	時間	内容
11月11日	10:00-12:00	地域交流イベント
11月12日	13:00-15:00	地域交流イベント
11月13日	16:00-18:00	地域交流イベント
11月14日	19:00-21:00	地域交流イベント
11月15日	22:00-24:00	地域交流イベント
11月16日	10:00-12:00	地域交流イベント
11月17日	13:00-15:00	地域交流イベント
11月18日	16:00-18:00	地域交流イベント
11月19日	19:00-21:00	地域交流イベント
11月20日	22:00-24:00	地域交流イベント
11月21日	10:00-12:00	地域交流イベント
11月22日	13:00-15:00	地域交流イベント
11月23日	16:00-18:00	地域交流イベント
11月24日	19:00-21:00	地域交流イベント
11月25日	22:00-24:00	地域交流イベント
11月26日	10:00-12:00	地域交流イベント
11月27日	13:00-15:00	地域交流イベント
11月28日	16:00-18:00	地域交流イベント
11月29日	19:00-21:00	地域交流イベント
11月30日	22:00-24:00	地域交流イベント

各神社、町内で秋祭りをいっしょに

「地域の絆だより」を発行(全世帯に配布)

やさしく走ろう京山

Safe Cycling

京山地区ESD推進協議会

障害を持つ子ども達や子育て世代や高齢者の問題などに、地域ぐるみで取り組んでいます。

京山地区「やさしく走ろう京山」運動

目標5. 学んだことを活かせる場をつくることで、 学びから持続発展し続ける地域をつくりまします。



市長と語る会



「緑と水の道」

「緑と水の道」プロジェクトは、平成19年の「市長と語る会」で行った、京山地区のESD活動に参加してきた中学生達を中心にした地域からの提案によって始まった市民提案型の公共事業として、官学民による整備推進協議会が設置され、平成26年4月に整備が完成しました。

ESDによる持続可能な開発を「緑と水の道」で具現化



歩道も水路の間の仕切りもない上、違法駐車が多く危険。



市民提案協働事業



広い歩道ができ、水路の間の仕切りもできて安心。散歩もゆっくり楽しめる。



水辺にふれる雁木もできて、親水性も安全性も高まった。



違法駐車が出来ない、スピードの出せない構造になって安心。

完成までの7年のプロセスそのものがESDの取組

つなぎ役のESDコーディネーターがキーパーソン



地区住民等による検討会



伊島学区の町内会長会での協議



市長への提言書の提出



官学民による整備推進協議会

完成後は、利活用から清掃管理まで、**地域主体**で実施



環境てんけん



キャンドルナイト



清掃活動



灯籠流し

総括(評価)シートによる活動全体の「見える化」

岡山市北区京山地区ESD(持続可能な開発のための教育)の取組「総括シート(2014年度→2015年度)」I版

ESDの目的…持続可能な社会づくり、重点事項…社会の中で共に生きる力を育む、『一人の百歩より百人の一歩』、思いやり教育の強化・充実、キャッチフレーズ…『E:えーものを S:子孫の D:代まで』

項目	中期目標 (2019年度までの目標)	2014・2015年度の成果目標	2014年度の行動計画	2014年度の行動結果	2014年度の評価		2015年度の行動計画(案)
					5段階評価	コメント	
市民等の育成	ESDの取組に参加して、社会のつながり、自分との関わりがわかり、社会の問題を自分ごとと捉え、主体的に持続可能な社会づくりに取り組む人が、地区人口の10%以上になっている。	地域を点検し、持続性を損なっている地域課題を見つけ、解決に取り組む市民を育てる。 流域というつながりの中で、体験を通して、原体験やコミュニケーション能力等を育む。	京山地区の環境てんげん:春…5月17日(土)、秋…10月18日(土)	計画通り実施できた。特に春のてんげんでは、過去最高の120名の多様な参加者で開催できた。	S	各学校での授業協力などをさせてもらうことで児童生徒とのつながりも増えた。授業リポートで大学生も多数参加していた。	京山地区の環境てんげん:春…5月16日(土)、秋…10月24日(土) ESDセンサス(地勢調査)を実施する(秋頃)。
			派流体験工コツアー:夏…7月19日(土)、冬…2月7日(土)	計画通り実施した。キャンセル待ちが出るなど、参加希望者は増加傾向にある。冬にけが人が1人出てしまった。	B	森山ツアーデスクとの連携で、上級の原体験を提供できたが、子どもの参加が多いので安全面をより強化していきたい。	派流体験工コツアー:夏…7月25日(土)、冬…2月13日(土) 安全対策を強化して内容を見直す。
			ESD教室と第8回のESD検定を実施する(1月31日等)。学校や研修会でのさらなる導入を図る。	計画通り実施した。50名以上以上ESD教室やESD検定を実施し、百名以上に認定証を発行した。	S	各学校での授業に協力させていただく機会も増え、いろいろなところでESD教室等を開催できた。	ESD教室と第9回のESD検定を実施する。(1月のESDフェス内等での実施する。) 学校や研修会でのさらなる導入を図る。
担い手の育成	学校や公民館での学びが地域で活かされるように、学びの連鎖をコーディネートする人が各教育機関等において、相互連携できている。	ESD人材育成カリキュラムを導入し、ESDコーディネーターの役割を担える人材を育てる。 コーディネーター的役割を担ってもらいたい人が学び合える場を作ることで、担い手を育成する。	岡大や清心女子大(人材育成論)等の講義や、公民館での研修等に、ESDによる人材育成等を取り入れる。	ESD国際会議等もあったので、例年以上に人材育成する機会も増えた。岡大教育学部との協働もすすんだ。	S	より多くの受講生が、講座修了後に実践者として活動し続けてくれるようにさらなる場づくりを進めたい。	岡大や清心女子大(人材育成論)等の講義や、公民館・学校でのESD研修等に、ESDによる人材育成を取り入れる。
			第10回ESDフェス(1月31日～2月1日)等の場を活かして、学び合いの場を作る。	ESDフェス以外にも、ESD国際会議関係や教員研修などで学び合いの場を作れた。	S	京山学区の4校合同の教員研修など、これまで以上に多様な場づくりに貢献した。	第11回ESDフェスティバル(1月30日～31日)等の場を活かして、学び合いの場を作る。
			第10回ESDフェスティバルを開催する。1月31日(土)～2月1日(日)	ESDフェスの10回記念として、市長、市議会議長、市教育委員長等を招いて京山ESD対話を行った。	S	市長等との京山ESD対話が実現でき、参加者数も目標の1000名以上(1200人)に達した。各内容も充実していた。	第11回ESDフェスティバル(1月30日～31日)を開催する。ESDセンサス(地勢調査)を実施する(秋頃)。
普及・啓発	持続可能な社会づくりに取り組むことが地域での常識・習慣になっている。	HPの充実と広報紙等の発行やESDコーディネーターの役割、ESDの認知・理解を広める。 映画を通してESDの普及・啓発を進める。 劇を通してESDの普及・啓発を進める。	ホームページや公民館だよりなどの記載を、よりわかりやすいものへ更新する。FMラジオのESD広報番組等を活用する。	これまでの集大成となる広報誌等を作成、発行した。7ヶ月間に渡りFMラジオの広報番組でアピールした。	S	ESD国際会議のおかげで、広報誌やパネルの作成、ラジオ等での広報など、ESDの認知と理解を広められた。	情報発信のベースとなるホームページや公民館だよりの記載を、よりわかりやすいものへ向上させる。フェイスブック等の活用もすすめる。
			京山ESD広報用に観音寺用水「緑と水の道」の映画を日本語と英語で作成し、秋の国際会議等で上映する。	観音寺用水「緑と水の道」の映画(日本語と英語)ができ、国際会議等、随所で上映、活用されている。	S	ESDの成果として、「緑と水の道」を紹介する映画として、高く評価される作品ができあがった。	ESDツーリズムにも活かせる京山地区の見どころをESDの視点で巡る広報用作品を作りたい。
			2014年に相応しい作品を作成し、京山ESDフェスやESD関連イベント等で公演する。	かぐや姫の物語を取り入れた「つながるねがいの最新版を京山ESDフェスにて公演した。	S	毎回、すばらしい舞台をつくってくれている分、関係者の負担が大きい。支えていく仕組みづくりをしたい。	ESDをさらに広めていくために、ESDをより端的にわかりやすく見せる演劇作品を作りたい。
地域づくり	【目指す地域像】 ①子ども大人も共に学び合い、地域の絆を強め、伝統文化を伝える場をつくる。 ②都市と農村の交流を通して、持続可能な地域づくりに京山間と都市部が連携して取り組む。 ③言葉や文化の壁を越えて、同じ地域に住む外国人と共生する地域。 ④障害者や高齢者も誰もが安心して暮らせる。安全で安心な住みよい地域。 ⑤学んだことを活かせる場をつくることで、学びから持続発展し続ける地域。	子ども大人も活動を通して学び合い、地域の絆を強め、伝統文化を伝える場をつくる。 都市と農村の交流を通して、持続可能な地域づくりに京山間と都市部が連携して取り組む。 海外のCLC等との連携や外国人との交流の場づくりを通して、国際理解と多文化共生を進める。 障害者や高齢者も誰もが安心して暮らせる地区になるための学びの場をつくる。 自然と人が共生する持続可能な地域づくりを具現化する。	ESDフェスを中心に、昔遊び等の内容をさらに充実させて実施する。	ESDフェスで世代間交流と伝統文化を継承するプログラムを充実させた。食では「炊き込みご飯」を継承した。	S	昔遊びや木のたてものづくり等、内容がさらに充実していた。幼稚園等の参加により、より多くの子どもたちに参加してもらえた。	ESDフェスを中心に、昔遊びや伝統文化の継承等の内容をさらに充実させて実施する。
			御津大野地区とのホテル交流会を「大野川いい川づくり」(6/14)に参加する形で継続し、連携対話の場をもつ。	ホテル交流会(6/14)を地元主催事業の中で行うことで、より多くの人と交流や対話の場もできた。	A	地元への負担の軽減と交流の輪の拡大は図れたが、都市農村連携に向けてもっと踏み込んでいきたい。	御津大野地区とのホテル交流会を「大野川いい川づくり」活動(6月13日)に参加する形で継続し、連携対話の場をもつ。
			「京山で地球めぐり」の定期開催、ESDフェスで多文化共生プログラムを行う。秋のESD国際会議等にも参加する。	計画通り実施した。ESDフェスではワールドカフェのほか、地域の絆や京山ESD対話で提言等も行った。	S	外国人も共に住み良い社会づくりに年間を通して取組を充実させている。	「京山で地球めぐり」の定期開催、ESDフェスで多文化共生プログラムを行う。海外の公民館・CLC等との姉妹縁組に向けた取組を進める。
			年間を通して、地域の絆プロジェクトを継続して行う。「地域の絆だより」を年数回発行・配布する。	「地域の絆だより」を年4回(3ヶ月に1回)発行できた。公民館・連合町内会の協力で、各世帯に配布された。	S	身近な地域の行事情報等の見える化と発信が進んだ。中学生から高齢者等とともに関わりたいとの要望があった。	「地域の絆だより」を年4回発行する。多世代交流の場を増やす。ESDカフェ(6/8等)や子育てトーク(6/15、9/8、12/21、3/8)等にも取り組む。
			観音寺用水「緑と水の道」をESDとして自然と人が共生する持続可能な地域づくりを具現化する。	環境てんげん活動や清掃活動等、年間有効活用していく。周知・広報用のパンフや映画を作成する。	S	国内外からも多数の視察や利用があった。岡山市景観まちづくり賞や国土交通省手づくり郷土賞も受賞した。	観音寺用水「緑と水の道」ではキャンドルナイト、灯籠流しを継続開催する(8月30日)。北高用水についても取り組む機会をスタートさせる。
仕組みづくり	学校教育機関と社会教育機関と地域組織による組織だった推進体制とカリキュラム等の整備・更新システムが確立され、公民館を拠点とした事務局ならびに教員と社会教育主事等のESDコーディネーターが公認として活動できる社会的保証と資金が持続的に確保されている。	地域全体でESDを継続的に組織だつて推進していくことができる体制と仕組みを確立させる。 各セクターのESD担当者などが、ESDに関して話し合える場を確立する。 自主財源づくりのため、オリジナルグッズの開発やコミュニティビジネスに取り組む。	第10回ESDフェスの実行委員会等を通して仕組みづくりを促進させる。	ESDフェス実行委員会を11/21、12/2、12/15、1/16、2/20に開催。プロジェクトごとの会合も多数実施。	S	幼稚園や動物園や県の機関等が協議会組織に加わり、参加の幅が広がった。各団体の積極的な関わりも増えた。	第11回ESDフェスの実行委員会等を通して仕組みづくりを促進させる。より多くの団体等が主体的に関わっていく体制と仕組みにしていきたい。
			各会合をより参加意欲が高まる内容にする。	本協議会の総会・全体会を6/27、3/28に、役員会を6/9、7/28、3/10に開催。	B	連絡調整や事務的な話し合いの場が多く、ESD担当者がESDについても話し合える場をつくりたい。	話し合える場づくりとして、ESDカフェやサロンを開催する(ESDカフェは6月8日、7月9日、9月17日、11月6日に開催)。
			経済界や産業界とも連携したソーシャルビジネス等に取り組む。	ESD活動DVDや教材の販売、パッケージの売り上げ等、自主財源づくりを行った。	B	より充実した活動を行うため、また、関係者の負担を軽減するため、さらなる自主財源づくりを模索していきたい。	経済界や産業界とも連携したソーシャルビジネス等もスタートさせる。

※評価は、S(計画以上によくできた)、A(計画が概ねできた)、B(計画の一部ができなかった)、C(計画があまりできなかった)、D(計画がまったくできなかった)の5段階の評価にしました。なお、表中のCLCは、コミュニティ学習センターの略称です。

グローバルアクションプログラム (GAP) 京山地区の2015年～2019年の主な内容

ESDの講座と検定、ESDセンサス(地勢調査)、ESDフェスティバル等を実施し、地域全体でSD(持続可能な開発)ならびにESDを推進します。ESDツーリズム等に取り組み、自立した人づくり、地域づくりが進められるようにします。他地域との連携を進めます。達成度の評価は、ESDセンサスに見る対象者の意識と行動の変化ならびに地域のSDの進行度で総合的に判断します。また、ESDを推進するフェロー認定者数を、5年で5000人、年平均1000人育成していきます。

全員参加型の生涯学習社会を目指して、すべての地域が、その地域の風土を活かしつつ、より良いふるさとづくりに、子どもからお年寄りまで**みんな**で取り組んでいくことが、地域の持続性を高めていくことにつながっていくのではないのでしょうか。(→「**地域総働型ESD**」)

「1人の100歩より
100人の1歩」

無理のない、無駄のない方法を！



未来は変えられる

「体験」から「**探究**」へ→意識(価値観)と行動の変革

ESD = (E)えーものを(S)子孫の(D)代まで

全員参加の地域総働型ESDに取り組むことで、政府が目指している「1億総活躍社会」の実現へも向かっていけると思います。そのためのメッセージ、「一人の百歩より百人の一步」(みんなで社会を良くしていこう)を、京山らしく、劇団公民館☆京山のメンバーに伝えてもらって、発表を終えます。
岡山地域賞の受賞、ありがとうございました。

